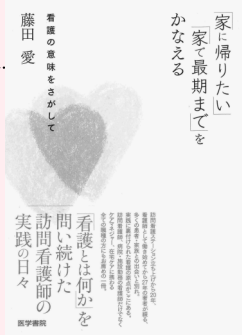


「家に帰りたい」「家で 最期まで」をかなえる 看護の意味をさがして

藤田愛=著
本体2300円+税
医学書院 ☎03-3817-5600



本当の看護とは何かを知りたい人に 読んでほしい

聖路加国際大学大学院看護学研究科在宅看護学分野教授 山田雅子

魂の看護に出会えました。でも、看護師の物語ではありません。看護するとは看護師だけの仕事ではなく、普通の人が

普通の生活の中で、大事な人をお願いやり行動することすべてが看護することなんだなあと思い返しました。書き手である看護師の藤田愛さんも、たくさん看護されている姿が手に取るようにわかります。

全身全霊をもって看護する 姿が描かれている

「看護師のコミュニケーション力が落ちていく」と言われて久しいです。患者経験をした人は、「看護師は一步踏み込む対話ができない」と言いますが、藤田さんの対話力は凄まじく素晴らしい。うまい具合に踏み込んで、気持ちよいほどに患者や家族、時には医師の心をつかみます。それは耳でキャッチして頭で理解するのでは到底なく、全身で感じるのでしょうね。推察とも違って、たと言葉に

よる表現がなくても、看護師藤田さんの五感から得られた情報からのアセスメントに第六感が加わって確信につながるのです。全身全霊をもって看護するとはこういうことだということが表現されています。「何かあったら呼んでください」と形式化されたセリフしか言わない看護師とは全く違うことが、誰が見てもわかります。

質の高い看護とは何でしょう。安全に治療を受けてもらうことです。転ばせないように行動制限することですか。褥瘡を創らないことですか。意思決定が必要な選択肢を投げかけることですか。この「愛の物語」を読めば、これらは看護師の仕事の基本の「き」の字にしかない、あるいは患者や家族の本当の想いに触れれば、これらの看護行為は質の高い看護どころではなく、余計なおせっかい看護になっている可能性に気づくかもしれません。

扱うのは、看護、そして人間の本質

在宅での死亡診断はしないという主治医、

認知症高齢者が自然に人生を終えることを許さない専門職たち、わかるように病状を説明しない医師、家族で決めてくださいと意思決定支援を放棄する看護師、こうした皆さんのハードルを乗り越えなければ、生きたいように生きられない、今の現実をあなたはどう受け止めますかという問いを、藤田さんはこの本を通してすべての人に投げかけています。

「あなたがいてよかった」と藤田さんの看護に触れた人々は口にします。それは、一緒になってハードルを越える努力を惜しまなかったからです。失敗もありましたが、それが看護することとされることにつながります。主語が誰なのかしばしばわからなくなる文章ですが、これでよいのです。テンポよく伝わりました。科学論文とは違い、看護のそして人間の本質を扱っているとても貴重な本だと思います。愛にあふれた物語です。電車で読むと涙があふれて困りました。